

# サステナブルファイナンス有識者会議第五次報告書 - 幅広い投資家への投資機会の拡充に向けて - 概要

- 欧米を中心にサステナブルファイナンスを巡る情勢に変化が見られる中、我が国において**サステナブルファイナンスを推進する意義を再確認**した上で、これまで課題の一つとされてきた**サステナビリティ投資を選好する**（注）**幅広い投資家への投資機会の拡充**について議論。
  - サステナビリティ投資商品等に関する海外における主な取組や個人・国内外の機関投資家によるサステナビリティ投資の実態把握（アンケート調査・ヒアリング等）を踏まえ、サステナビリティ投資を選好する幅広い投資家において、**サステナブルファイナンスの意義・効果が認知・理解された上で、その投資選好に応じた投資機会の提供につながり得る**と考えられる取組について取りまとめた。
- （注）本報告書では、投資家が一つの投資手法としてサステナビリティ投資を選択し、又はポートフォリオの一部にサステナビリティ投資商品を組み入れるという趣旨も含めて用いており、潜在的に選択し得る場合も含意。

## サステナブルファイナンスの推進の意義

- 気候変動等の社会・環境課題の多くは経済活動と密接に関係しており、こうした課題に対応した新たな産業・社会構造への転換を促すためには**民間資金の一層の拡大が不可欠**。社会・環境課題を考慮した投融資等は、**経済活動の基盤を強化**し、ユニバーサルオーナー等にとって、長期的な投融資ポートフォリオ全体のリスク・リターン<sup>1</sup>の改善につながる効果があると期待される。
- 金融庁においては、**中長期的な投資リターンや企業価値の向上の実現を目指す各経済主体の主体的な取組を支援するため、引き続きサステナブルファイナンスを推進**していくことが期待される。

## サステナビリティ投資の実態等を踏まえた幅広い投資家への投資機会の拡充に向けた示唆と期待

### ① サステナビリティ投資を選好する投資家における認知・理解の向上

- サステナビリティ課題への関心は年齢等が上がるほど高く、**若年層に限らず中高年層等においてもサステナビリティ投資を選好する個人が存在**。
- 各年齢層の半数がサステナビリティ投資を認知していない一方、**サステナビリティ投資の選好に関する質問に対して「したいと思う」と回答した未経験者が半数**。「したいと思わない」と回答した最大の理由は「**投資手法が分からない**」ため。

- サステナビリティ投資を選好する個人に対して、投資手法を含む**サステナブルファイナンスに関する情報提供**が行われ、その認知・理解が進めば、**運用対象の多様化や新たな投資機会の提供**につながり得る。

### ② サステナビリティ投資商品の組成・提供における更なる取組

- EU・英国のサステナビリティ投資商品の**分類等は個人にとって有用との指摘がある一方、我が国ではサステナブルファイナンスの認知・理解が不十分**であり、**分類等の導入は投資につながらない**との指摘。
- 現状、**サステナビリティ課題の解決への貢献等**がサステナビリティ投資の**主な選好理由**。一部の未経験者は、**サステナビリティの考慮と投資リターンとの関係に係る論理的な説明やデータが提供**されれば選好が変化する可能性。

- **まずは個人の認知・理解の向上が重要**。その上で、認知・理解の向上を図る取組の進展や海外の規制・監督の動向も踏まえ、**必要に応じてサステナビリティ投資商品の分類のあり方等を検討**。
- サステナビリティ投資を選好し得る個人への投資選好に応じた投資機会の提供には、**サステナビリティ課題の解決への貢献や中長期的な投資リターンへの影響を重視する程度に応じた説明内容の工夫等**が有効。